

耐震診断の結果の公表【要緊急安全確認大規模建築物(佐賀市が所管する分)】

■病院、診療所

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	国立大学法人 佐賀大学医学部 附属病院 外来診療棟	佐賀市鍋島五丁目1番1号	病院	(2)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	Is/Is <sub>o</sub> = 1.06 CTU・SD = 0.68	耐震改修済		Z=0.8,G=1.0 U=1.25
2	国立大学法人 佐賀大学医学部 附属病院 中央診療棟	佐賀市鍋島五丁目1番1号	病院	(2)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	Is/Is <sub>o</sub> = 1.03 CT・SD = 0.65	耐震改修済み		
3	国立大学法人 佐賀大学医学部 附属病院 西病棟	佐賀市鍋島五丁目1番1号	病院	(5)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	Is/Is <sub>o</sub> = 1.30 CT・SD = 0.32	耐震改修済み		Z=0.8,G=1.0 U=1.25

■百貨店、マーケットその他の物品販売業を含む店舗

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	佐賀玉屋 (南館)	佐賀市中の小路12番1	百貨店	-	-	-	-	-
	1階部分			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Is <sub>o</sub> = 1.35 CTU・SD = 0.32			Z=0.8,G=1.0 U=1.0
	2~8階部分			(1)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is = 0.52 q = 1.33	耐震改修	時期未定	

■ホテル、旅館

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	ホテルニューオータニ 佐賀	佐賀市与賀町 1番2号	ホテル	-	-	-	-	-
	1～3階部分			(6)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	Is/Iso = 1.01 CTU・SD = 0.39	耐震改修済	Z=0.8,G=1.0 U=1.0,Rt=1.0	
	4～8階部分			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.05 CTU・SD = 0.52		Z=0.8,G=1.0 U=1.0	

■保健所、税務署その他これらに類する公益上必要な建築物

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	佐賀市役所 本庁	佐賀市栄町1 番1号	庁舎	-	-	-	-	-
	地階部分			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.02 CTU・SD = 0.76	耐震改修済	Z=0.8,G=1.0 U=1.5	
	1～7階部分			(4)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が充腹材の場合	Is/Iso = 1.0 CT・SD = 0.3	耐震改修済	Z=0.8,G=1.0 U=1.5	

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
(1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
(2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $Cr \cdot S_d < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \leq Cr \cdot S_d \leq 1.25$
			$1.25 < Cr \cdot S_d$
(3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $Cr_U \cdot S_d < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Cr_U \cdot S_d$
(4) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $Cr \cdot S_d < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Cr \cdot S_d$
(5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $Cr \cdot S_d < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Cr \cdot S_d$
(6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $Cr_U \cdot S_d < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq Cr_U \cdot S_d$

I. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※) 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。